

しいのであるが、今のような場合にはむしろ棚雲あるいは庇雲と言った方が良いような気がする。孤峰の旗雲とは恐らくその機構が違っているであろう。すなわち今の棚雲はキレット等低い所で濃く、Matterhorn 等では山頂だけに附くと言う場合、明らかに位置が反対だからである。

4. 結 論

旗雲は寒冷前線が稜線に一時せき止められて、風向が

稜線に直角の場合に、稜線風下側の暖気が、稜線を越える寒気と出会って発生するものである。

参 考 文 献

- [1] 大井1954: 富士の笠雲, 天気 1-2, 12, [2] 大井・1955: 富士の吊雲・同 2-2, 24, [3] 大井・1954: くらげ雲・同 1-3, 5, [4] 大井・1955: 笠雲の下面 同 2-5, 1 [5] 山本・大井・1955: 富士から見た梅雨前線・同 2-11, 302

1956年6月1日気象記念日にソヴェートからよせられたメッセージ

6月1日の気象記念日にモスクワ放送局より、ソヴェートの気象学と題して放送される予定でしたが、当日は国際子供デーや関鑑子女史のスターリン平和賞受賞録音放送等がかさなったため、予定が変更になりました。その代りとして、放送予定の原文が同放送局から送付されて来ましたので、邦文に翻訳して発表します。

なお講演予定者は中央予報研究所副所長イワン・プヘルコ地理学博士である。同博士の宛名は

Dr I. Pchelko

Central Institut of Prognose.

13, Bolshevistskaja st. Moskow. U.S.S.R.

同じ仕事をしている尊敬する日本の気象学者の皆さん日本において気象記念日が祝われている今日6月1日にあたって、ソ同盟水理気象事業中央予報研究所に働く者の名において、全日本の気象学者の皆様にお祝を述べ、目、今後の実り多い仕事をのぞむことをお許し下さい。

世界の気象学者には一つの共通した関心があります。この関心と申しますのは、各国の経済の種々の分野の要求を天気予報によってもっともよく保障するために、世界の大気の世界について詳しく研究することであり、

日本の気象学者とソ同盟の気象学者の間では、この関心の共通性は、特に緊密であります。と申しますのは、日本の地域も、ソ同盟の極東地域の大部分も、ともに、しばしば、全く同じ大気の過程の作用の下にあるからであります。このような過程の研究は、日本とソヴェートの気象学者の共通の問題であります。

ソ同盟の気象事業の労働者は、日本の気象学者達が太平洋地域の気象通報を無線通信によって蒐集し伝達し、

また大気の状態についての情報を伝達することによって遂行している膨大な仕事を認識し目つ高く評価しております。

さてソヴェートの気象学者達によって行われている仕事について、すこし述べてみましょう。

短期天気予報は、総観的方法を基礎として作成されております。特に降水予報のために、空気の垂直運動の計算、気圧変化に対する渦度移流の影響の計算等々が利用されております。

長期月間予報を作成する際には、主として、皆様よく御存知のボリス・ボムベヴィッチ・ムルタノフスキーの総観的方法が用いられています。将来の気圧図を計算するために、私達は、高性能電子計算機を利用しはじめております。統計は、天気予報の精度が次第に良くなってきている。ということを示しています。

中央研究所は、天気予報法、特に長期予報法の改善の研究をしております。

御存知のように、ソ同盟の領土は広く、自然地理学的条件の上からいっても多種多様であります。これらは、大気の過程にさまざまに影響し、そのことによって、天気と気候の大いなる多様性を作り出しております。したがって、中央研究所の補佐として、ソ同盟の一連の都市には、他の学術研究所や観象台が作られております。それらは気候と大気過程の局地的な特殊性を研究しております。

終りにのぞみ気象学の学問と実践面の成果を平和的目的のために利用するという仕事において、ソ同盟と日本の気象学者の間に、緊密な全面的な協力が打立てられることを希望することをお許し下さい。

(気象研究所、当舎)